

## 滞在報告

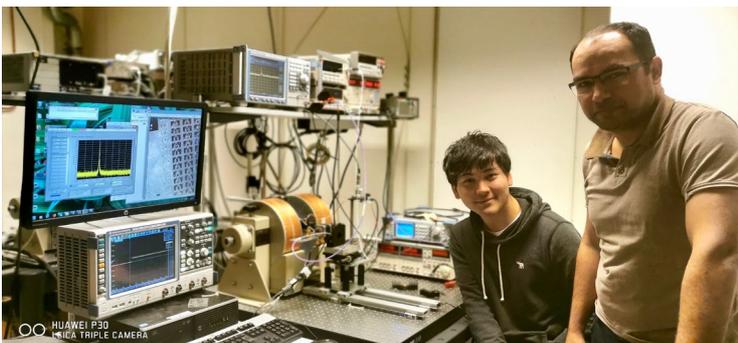
ナノスピントロニクス領域

D3 安藤 冬希

私は化学研究所若手研究者国際短期派遣事業に援助を受けて、スウェーデンのヨーテボリ大学に約1ヶ月間滞在させていただきました。スウェーデン西海岸に位置するヨーテボリは、ストックホルムに次いで大きな都市であり、自動車会社 Volvo に代表されるように工業の盛んな一面とヨーテボリ大学やチャルマース工科大学のある学生都市の一面を兼ね備えています。実際に訪れてみると、街中が若い人達の活気で溢れており、研究室外でも他大学の留学生と交流して楽しく過ごすことが出来ました。また、市内の移動手段としてトラムを利用していたのですが、乗り降りの際に定期券の検札を受けないことには驚きました。

私の滞在先は、スピントルク発振素子の研究で世界的に有名な Åkerman 教授の研究室で、主にスピンドYNAMIXに關わる諸現象の機構解明とその応用に取り組んでいます。私自身は、最近考案されたスピンホール発振素子 (SHNO) の原理解明を目的とした実験を行いました。実験を進めていく中で研究室スタッフの方と綿密に議論を重ね、測定系の仕組みや測定・解析のノウハウを学ぶことが出来ました。研究室での学生の滞在時間や実験量に関しては、日本の研究室とあまり差がないようでした。ただ、毎日のように昼食やコーヒーブレイクの際に研究の進捗状況について熱心に議論している様子は印象的で、私も見倣って帰国後に実践したいと思いました。また、Åkerman 研の学生の公聴会にも参加させてもらいましたが、私的な友人も数多く集まって聴きにくる点や質疑応答が2時間以上にも及ぶ点は、自分の知っている公聴会の雰囲気と大きく異なっていて新鮮でした。大学内には至る所に無料で飲み放題のコーヒーマーカーやカフェスペースが設置されており、福祉国家と呼ばれる所以も随所に感じました。

初めて海外に滞在し多様な国籍・背景を持つ研究者と触れ合う中で気付いたことは、彼らは研究内容だけでなく国内の政策や国際情勢も加味した上で、非常に幅広い選択肢の中から自分にとって最善のポストを選んでいるということです。今までの私には無かった観点を与えてくれる、貴重な経験であったと感じています。今回このような機会を与えて下さった関係者の方々と支援して下さいました研究室スタッフの方々に、この場を借りて深く感謝申し上げます。



研究室スタッフの Ahmad さんとの実験中。



ヨーテボリの街並。